

令和3年度第1回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：令和4年3月28日（月）

会 場：書面開催

事務局：帯広市都市環境部環境室環境課

議 事：協議事項1 会長及び副会長の選出について
報告事項1 令和2年度版帯広市環境白書について
報告事項2 令和3年度帯広市環境モデル都市フォローアップについて

資 料：帯広市環境モデル都市行動計画（2019年度～2023年度）の概要 【資料1】
環境モデル都市の取り組みについて（概要） 【資料2】
個別事業に関する進捗状況等報告書 【資料3】

会議内容：以下のとおり

協議事項1 会長及び副会長の選出について
以下のとおり、会長、副会長が選出された。
会長 帯広畜産大学 教授 宗岡 寿美 氏
副会長 帯広大谷短期大学 准教授 石井 洋 氏

報告事項1 令和2年度版帯広市環境白書について

委員からの意見	帯広市の考え方
一般の建物にもエコな修繕をされては いかがかと思えます。	帯広市では省エネ性、耐久性等に優れた住宅の建 築を普及促進するため「おびひろスマイル住宅補助 金」による支援や省エネに向けたリフォームへの補 助事業を実施しています。
太陽光発電システムの設置戸数が実績 3,170戸で指標値の4,500戸に対して達成 率が70%と未達である。売電価格の減少 により「太陽光で売電＝おトク」の提案が 難しくなっており、新築住宅での採用数が 減少していることが要因として挙げられ る。 今後はZEH・Nearly ZEH・ZEH Ready・ ZEH Oriented 住宅採用を積極的に推進す ることで新築住宅への太陽光発電システ ムの設置戸数を増加させる取り組みが必 要であると考えます。	また、新エネルギー導入促進補助金などにより温 室効果ガス排出量削減に主眼を置き、一般家庭への 太陽光発電システムなどの新エネ・省エネ機器の導 入促進を図っています。 今後も、本市の地域特性である長い日照時間を活 かす太陽光発電システムの導入促進を図るなど、い ただいた意見を踏まえ一般家庭における創エネ・省 エネを進めるための取り組みを引き続き進めていき ます。
8～9ページ 森林調査について 近年、森林調査があまり行われなくなっ てきているように見えます。 新規の調査対象とする森林が減ってい ることが原因と考えられますが、過去に調 査した森林のその後の変化なども調査し ておくことも帯広市の将来のため重要で あると考えます。	過去、調査を実施した森林のうち、所有者の同意 が得られたものについては、市の自然環境保全地区 に指定して保全するとともに監視員により動植物の 状況を含めた定期的な監視を行っています。 今後の森林調査については、自然環境保全地区の 新規指定の必要性が生じた際に調査の実施について 検討していきます。

<p>市内の百年を超える樹木と緑地についても何かの配慮をしていただきたいです。</p>	<p>樹容が美観上優れ、由緒由来があり学術的価値の高い樹木については、「保存樹木」に指定しています。</p> <p>また、緑地についても、良好なみどりの環境を形成している樹林地などを「緑の保全地区」に指定しているほか、指定には至らないまでも可能な限り生物多様性に配慮した管理を行っているところもあります。なお、「保存樹木」及び「緑の保全地区」の指定については、緑化審議会に意見を聴いて行うことになっています。</p>
<p>ボランティアで集めたごみをまとめて捨てられる集積場があると便利だと思う。</p> <p>また、地域のごみを拾うボランティア活動のためのごみ袋の提供やごみ袋を配布している「エコフレンズ」の取り組みを市民に周知してほしい。</p>	<p>ボランティア収集ごみについては、「清掃ごみ」と表示して、ごみステーションに出していただければ回収しており、現在集積場の設置は考えていません。なお、多量の場合や、ごみステーション以外の場所に出したい場合は、事前に清掃事業課に電話連絡していただければ対応しています。</p> <p>ボランティアで地域のごみを拾う「エコフレンズ」の取り組みについては、市民の皆様にご協力いただき活用いただけるよう出前環境教室や町内会へのチラシの配布、広報紙、市HPへの掲載等を通じ周知していきます。</p>
<p>安心安全で厚労省が定めた「おいしい水」の要件7項目をすべて満たしている帯広市のおいしい水道水を今後も積極的にPRしていく必要がある。</p>	<p>清流日本一に輝いた札内川の伏流水を水源とする「おびひろのおいしい水」は貴重な地域資源であり、「帯広の水を見る週間」や出前講座、市HP等を通じ今後も、幅広くPRしていきます。</p>
<p>現時点での市の環境の状況、課題、行動計画等を環境週間等の機会を利用し、適切な時期に市民への情報提供の工夫が必要だと思います。</p>	<p>毎年、帯広市の環境の状況及び環境の保全・創造に関する施策の実施状況をまとめた帯広市環境白書を発行しているほか、環境パネル展や環境交流会、出前環境教室、省エネ啓発チラシの市内全戸配布、市HP、広報紙への掲載等により、市の環境に関する情報を発信しており、今後も引き続き適切な情報の発信に努めます。</p>
<p>気になるのは市内にいる“きつね”の存在です。普通に出て子供たちに何かなければいいなあと思っています。</p>	<p>本市では、北海道が作成している鳥獣保護管理事業計画に基づき、個体数の調整などの鳥獣の保護及び管理に努めているほか、国が作成している被害防止施策の基本方針に即し、帯広市鳥獣被害防止計画を策定し対策を講じています。</p> <p>市街地でのキツネ対策は、キツネを寄せつけない環境づくりが第一となるため、ごみの管理の徹底や忌避剤をまくなどの対処法について市民に説明しています。また、エキノコックス症の予防と対策については市HPへの掲載を通じ周知しているところです。</p>
<p>公共バスの普及も乗りやすくなればうれしいです。</p>	<p>バス事業者によるダイヤの見直しやバス待合環境の改善、バスの現在位置が分かるバスロケーションシステムの導入等により利便性の向上を図っています。また、市内小学校や高齢者への出前講座の実施や、市内中高校生、転入者及び高齢者に向けて、バスの利用方法などを記載した小冊子を配布するなど情報提供を行っています。</p> <p>今後も、誰もが利用しやすい公共交通を目指し、取り組みを進めます。</p>

報告事項2 令和3年度帯広市環境モデル都市フォローアップについて

委員からの意見	帯広市の考え方
<p>温室効果ガスの削減実績は年々伸びており、とても素晴らしいと思います。</p> <p>また、畜産業が盛んな十勝において、家畜排せつ物の利用はとても効果的に思います。</p> <p>太陽光発電におきましても、晴れが多い十勝の気候と相性が良いと感じました。</p> <p>地域の特色に基づいた取組に好感を持ちました。</p>	<p>今後も環境モデル都市行動計画に基づき、再生可能エネルギーの導入促進に努め、温室効果ガス排出量削減に取り組んでいきます。</p>
<p>取り組みが進んでおり、成果も上がっていることが理解できました。</p>	
<p>充分と思います。</p>	
<p>令和2年度帯広市新エネルギー導入促進補助金実績によると太陽光発電(蓄電池なし)が募集件数100件に対して22件、太陽光発電(蓄電池あり)が募集件数50件に対して49件と太陽光発電(蓄電池なし)の応募件数が非常に少なくなっており、市の補助金を有効に活用することができていない状況である。</p> <p>新エネルギー導入促進補助金をより効果的に活用できる仕組みづくりが必要と考える。</p>	<p>帯広市新エネルギー導入補助金を通して、温室効果ガス排出量削減効果の大きい太陽光発電システムなどの再エネ・省エネ機器の一般家庭への導入促進支援を継続してきました。</p> <p>補助事業については、実績を踏まえ必要に応じ募集内容を見直すなど、効果的に活用されるよう事業のあり方について検討していきます。</p>
<p>令和2年度より帯広市では市内全小中学校(40校)で、「おびひろ市民学」をスタートしました。</p> <p>この取組は、帯広の豊かな自然環境や歴史、伝統、文化、産業、地域住民との関わりを通して、「ふるさと帯広」に対する誇りと愛着を育み、地域社会の一員としてよりよい地域づくりに関わる子どもを育てることをねらいとしています。</p> <p>小中9か年の学びを継続させるポイントは3点あり、①十勝平野を学び舎にした豊かな学び②市民全員を先生にした多様な学び、③フードバレーとかち×SDGsとなります。</p> <p>これまで以上に、帯広市の推進する環境モデル都市の取組に「おびひろ市民学」を落とし込むことで補完できるものと考えます。また、行政と学校教育が連携を図ることは大切なことであるとも考えます。</p>	<p>おびひろ市民学実施においては、環境保全の視点やSDGsへの理解を深める授業を環境課職員が講師を務めるなど、学校と連携しながら進めています。</p> <p>授業を受けた児童・生徒からは、「帯広のことが好きだ」、「将来帯広で働きたい」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」など肯定的な声が多く寄せられています。</p> <p>9年間の学びである市民学において、現在設定している内容を基本に、環境モデル都市の取組についても授業に盛り込むなど、おびひろ市民学の中に環境保全について盛り込む工夫をしていきたいと考えています。</p>

<p>ごみの減量化・資源化は循環型社会を目指す上で重要なテーマだと思います。</p> <p>現在、十勝圏複合事務組合が計画中の新中間処理施設整備事業では各自治体のごみ施策と整合をとりながら市民・町民、各自治体、組合での情報共有、理解、コンセンサスの下で PDCA を進めることが重要です。</p> <p>組合のホームページで住民説明会資料、パブリックコメントの結果の一部が公開されているが、排出量、投資 290 億円の分担、建設地においても帯広市の関りは大きいので、市民の理解を得る為にも、より積極的にプロセスをオープンにして行く必要があると思います。</p> <p>(当環境審議会にも情報、説明があればと思っております)</p>	<p>新中間処理施設整備事業については、十勝圏複合事務組合において検討を進めているところです。</p> <p>帯広市が実施している事業ではないことから、いただいたご意見につきましては十勝圏複合事務組合にお伝えします。</p> <p>また、必要に応じ環境審議会において情報提供していきます。</p>
---	--